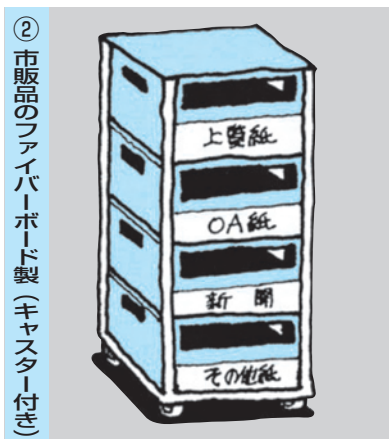




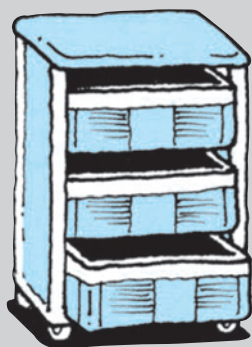
① ボックス3段セット



② 市販品のファイバーボード製(キャスター付き)



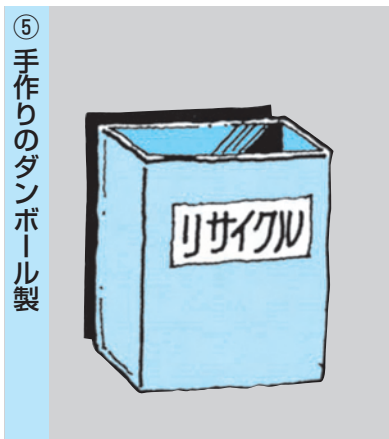
③ 市販品のプラスチック製



④ 市販品の紙製



⑤ 手作りのダンボール製



①～③は、フローアやオフィスに設置するタイプで、一般的に紙質の種類を分けるほど紙の資源価値は高まります。また、個人用のごみ箱を撤去し、分別ボックスの横に共用のごみ箱を設置することにより、ごみとして処分される紙類を減量でき、紙の回収率も向上します。分別ボックスは、フローアやオフィスに1つ設置するのが望ましいでしょう。

④・⑤は、手元分別のために個人の机に取り付けるタイプです。再生可能な紙ごみを一時的に入れておき、退社時等に分別ボックスへ仕分けすることにより、手間をはぶき、紙の回収率を高めることができます。

分別ボックスは、市販もされていますが、コピー用紙の空き箱等を利用して、簡単に作成することもできます。

(3) 古紙の回収を継続していくために

① トップの理解と支援

企業イメージの向上とコスト負担について、企業トップの理解と支援が必要です。

② 回収システムについての積極的なPR

社内セクション毎に、リサイクル推進委員等を設置するなど、目的や責任の所在を明確にする。

③ 社内表彰など社員意識の向上・啓発

積極的に取り組んでいるセクションに対する表彰や公表制度などにより、常にやる気を引き出す工夫をする。